

旅行取扱状況の概観（平成26年5月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、KNT個人旅行販売、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取扱いは、一般団体は前年比126.5%、学生団体は同125.2%と大きく上回り、団体旅行合計で同126.3%と前年を大きく上回った。企画旅行については前年比87.6%と前年を下回ったものの、個人旅行についても同128.6%と前年を大きく上回った。この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比103.4%と前年を上回った。

国内旅行の取扱いは、一般団体は前年比114.0%、学生団体は同104.3%と上回り、団体旅行合計で同106.6%と前年を上回った。企画旅行については前年比104.1%と前年を上回り、個人旅行については同97.0%と前年をやや下回った。この結果、国内旅行総取扱額としては、104.1%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比144.8%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の5月の総取扱額は前年比104.5%となり前年を上回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は大型のインセンティブ旅行の取扱いで前年比126.6%と大きく前年を上回った。学生団体は堅調な取扱いで同125.2%と前年を大きく上回った結果、海外団体旅行合計で同126.4%と前年を大きく上回った。

国内団体については、一般団体は複数のMICE案件の扱いや職場旅行の扱いで前年比114.3%と大きく前年を上回った。学生団体は修学旅行の扱い校数が増加し、同104.3%と前年を上回った結果、国内団体旅行合計で前年比106.6%と前年を上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比96.0%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、関西・中国四国・九州方面が好調を維持している。一方北海道や沖縄といったロング方面が不調であり、加えて伊勢神宮の遷宮行事などの反動もあり伊勢志摩方面を中心として中部地方が伸び悩んだ。

ホリデイは、引き続き東アジア方面を中心として全般的に不調である。各方面とも低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり、全体の取扱人数、取扱額とも前年を下回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、アメリカ・オセアニア方面が好調であったが、昨年実施のチャータークルーズの反動もあり、前年比100.4%と前年並みであった。

バス旅行を除く国内旅行部門は北東北・中部北陸・山陰山陽方面が好調であったが、前年比102.1%と前年並みであった。バス旅行部門は宿泊バス旅行が伸び悩んだものの、日帰りバスツアーが好調であり、前年比112.9%と大きく前年を上回った。

テーマ旅行部門は、ひとり旅が引き続き堅調であり、前年比107.7%と前年を上回った。